

2022年3月期通期決算 FAQ

2022年5月10日

【2022年3月期の実績について】																																																																																																																																																																																																																																								
Q1	2022年3月期業績の全体感について、事業環境なども踏まえてセグメント別に教えてください。																																																																																																																																																																																																																																							
A1	<p>営業活動利益は前期比 57 億円（24.2%）増加の 293 億円、当期利益（親会社所有者帰属）は 27 億円（20.1%）増加の 160 億円となり、新型コロナウイルス発生以前の 2019 年 3 月期の利益水準を回復しました。</p> <p>営業活動利益の主な増減要因は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ICT ソリューション事業は、企業の IT 投資が堅調な中、インフラ構築ビジネスの展開に加えソリューションビジネスおよびリモートワーク環境の整備に注力し、ネットワークセキュリティ関連のほか、ストレージ関連の案件が好調に推移し、増益となりました。 ● モバイル事業は、ショップへの来店者数は回復するものの、コロナ禍での店舗支援金など手数料収入が減少したこともあり減益となりました。 ● 畜産事業は、緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の影響により外食産業向けの需要は低迷していたものの、前期の在庫解消や畜産物価格の上昇等により増益となりました。 ● 鋼管事業は、エネルギー需要が大きく減退した前期から、欧米経済の回復により北米での鋼管需要も回復しつつあり、増益となりました。 ● 航空宇宙事業は、官公庁向け契約の端境期にあることや航空機部品取引が低調に推移していることから、減益となりました。 <p>セグメント別 営業活動に係る利益/当期利益（親会社所有者帰属）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="3">営業活動に係る利益</th> <th colspan="3">当期利益（親会社帰属）</th> <th colspan="2">(参考)22/3月期見通し</th> <th colspan="2">(参考)22/3月期見通し</th> </tr> <tr> <th>21/3月期 通期実績</th> <th>22/3月期 通期実績</th> <th>増減</th> <th>21/3月期 通期実績</th> <th>22/3月期 通期実績</th> <th>増減</th> <th colspan="2">営業活動に係る利益</th> <th colspan="2">当期利益（親会社帰属）</th> </tr> <tr> <th colspan="2">(単位：億円)</th> <th></th> <th></th> <th></th> <th></th> <th>見通し</th> <th>達成率</th> <th>見通し</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">電子・デバイス</td> <td>ICTソリューション</td> <td>110</td> <td>128</td> <td>19</td> <td></td> <td></td> <td>123</td> <td>104%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>モバイル</td> <td>58</td> <td>43</td> <td>▲15</td> <td></td> <td></td> <td>42</td> <td>102%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8</td> <td>19</td> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td>19</td> <td>102%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電子・デバイス</td> <td>176</td> <td>191</td> <td>15</td> <td>85</td> <td>79</td> <td>▲5</td> <td>184</td> <td>104%</td> <td>73</td> <td>109%</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">食料</td> <td>食品</td> <td>▲4</td> <td>▲1</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>畜産</td> <td>▲9</td> <td>17</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>85%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>食糧</td> <td>27</td> <td>19</td> <td>▲8</td> <td></td> <td></td> <td>25</td> <td>77%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>▲0</td> <td>▲0</td> <td>▲0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>食料</td> <td>15</td> <td>35</td> <td>20</td> <td>15</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>48</td> <td>74%</td> <td>34</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">鉄鋼・素材・プラント</td> <td>工作機械・産業機械</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>107%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>▲4</td> <td>17</td> <td>21</td> <td></td> <td></td> <td>13</td> <td>127%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エネルギー・化学品 他</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>▲3</td> <td></td> <td></td> <td>18</td> <td>74%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄鋼・素材・プラント</td> <td>18</td> <td>41</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>33</td> <td>12</td> <td>41</td> <td>99%</td> <td>37</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">車両・航空</td> <td>航空宇宙</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>▲12</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> <td>65%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車両・車載部品</td> <td>5</td> <td>13</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td>11</td> <td>119%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>▲0</td> <td>▲0</td> <td>▲0</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車両・航空</td> <td>21</td> <td>17</td> <td>▲4</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>▲0</td> <td>17</td> <td>98%</td> <td>13</td> <td>112%</td> </tr> <tr> <td>その他、消去</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>▲2</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>103%</td> <td>3</td> <td>269%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>236</td> <td>293</td> <td>57</td> <td>133</td> <td>160</td> <td>27</td> <td>300</td> <td>98%</td> <td>160</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		営業活動に係る利益			当期利益（親会社帰属）			(参考)22/3月期見通し		(参考)22/3月期見通し		21/3月期 通期実績	22/3月期 通期実績	増減	21/3月期 通期実績	22/3月期 通期実績	増減	営業活動に係る利益		当期利益（親会社帰属）		(単位：億円)						見通し	達成率	見通し	達成率	電子・デバイス	ICTソリューション	110	128	19			123	104%			モバイル	58	43	▲15			42	102%			その他	8	19	11			19	102%			電子・デバイス	176	191	15	85	79	▲5	184	104%	73	109%	食料	食品	▲4	▲1	3			3	-			畜産	▲9	17	26			20	85%			食糧	27	19	▲8			25	77%			その他	▲0	▲0	▲0			0	-			食料	15	35	20	15	25	10	48	74%	34	74%	鉄鋼・素材・プラント	工作機械・産業機械	7	11	4			10	107%			海外	▲4	17	21			13	127%			エネルギー・化学品 他	16	13	▲3			18	74%			鉄鋼・素材・プラント	18	41	22	21	33	12	41	99%	37	88%	車両・航空	航空宇宙	16	4	▲12			6	65%			車両・車載部品	5	13	8			11	119%			その他	▲0	▲0	▲0			0	-			車両・航空	21	17	▲4	15	15	▲0	17	98%	13	112%	その他、消去	7	10	4	▲2	8	10	10	103%	3	269%	合計	236	293	57	133	160	27	300	98%	160	100%
	営業活動に係る利益			当期利益（親会社帰属）			(参考)22/3月期見通し		(参考)22/3月期見通し																																																																																																																																																																																																																															
	21/3月期 通期実績		22/3月期 通期実績	増減	21/3月期 通期実績	22/3月期 通期実績	増減	営業活動に係る利益		当期利益（親会社帰属）																																																																																																																																																																																																																														
	(単位：億円)						見通し	達成率	見通し	達成率																																																																																																																																																																																																																														
電子・デバイス	ICTソリューション	110	128	19			123	104%																																																																																																																																																																																																																																
	モバイル	58	43	▲15			42	102%																																																																																																																																																																																																																																
	その他	8	19	11			19	102%																																																																																																																																																																																																																																
	電子・デバイス	176	191	15	85	79	▲5	184	104%	73	109%																																																																																																																																																																																																																													
食料	食品	▲4	▲1	3			3	-																																																																																																																																																																																																																																
	畜産	▲9	17	26			20	85%																																																																																																																																																																																																																																
	食糧	27	19	▲8			25	77%																																																																																																																																																																																																																																
	その他	▲0	▲0	▲0			0	-																																																																																																																																																																																																																																
食料	15	35	20	15	25	10	48	74%	34	74%																																																																																																																																																																																																																														
鉄鋼・素材・プラント	工作機械・産業機械	7	11	4			10	107%																																																																																																																																																																																																																																
	海外	▲4	17	21			13	127%																																																																																																																																																																																																																																
	エネルギー・化学品 他	16	13	▲3			18	74%																																																																																																																																																																																																																																
鉄鋼・素材・プラント	18	41	22	21	33	12	41	99%	37	88%																																																																																																																																																																																																																														
車両・航空	航空宇宙	16	4	▲12			6	65%																																																																																																																																																																																																																																
	車両・車載部品	5	13	8			11	119%																																																																																																																																																																																																																																
	その他	▲0	▲0	▲0			0	-																																																																																																																																																																																																																																
車両・航空	21	17	▲4	15	15	▲0	17	98%	13	112%																																																																																																																																																																																																																														
その他、消去	7	10	4	▲2	8	10	10	103%	3	269%																																																																																																																																																																																																																														
合計	236	293	57	133	160	27	300	98%	160	100%																																																																																																																																																																																																																														

Q 2	食料セグメントは第3 四半期時点での見通しよりも下振れしており、営業活動利益、当期利益ともに74%の達成率ですが、減速の要因を教えてください。
A 2	畜産事業は相場上昇により好調に推移していましたが、第4 四半期に入り、特に牛肉市況においてピークアウトが見られ、低価法による在庫の評価損などが発生したことによるものです。食糧事業においても商品先物の評価損が先行したことなども重なり、食料セグメントは第4 四半期において利益が伸び悩みました。
Q 3	鉄鋼・素材・プラントセグメントの営業活動利益はほぼ計画通りに着地した一方、当期利益は88%の達成率となっています。その理由を教えてください。
A 3	鋼管事業の営業活動利益は前期比 21 億円の増益ですが、当該事業の主要子会社における当社グループ出資比率は約 50%程度となっており、当期利益では前期比 8 億円の増益に留まることが主因です。
Q 4	「その他の金融費用」▲16.9 億円は何か、ご説明をお願いします。
A 4	電子・デバイスセグメントにおいて、第2 四半期に持分法投資先への優先株式を全額評価減したことによる損失が大宗となります。
	【2023 年 3 月期見通しについて】
Q 5	増収増益の見通しとなっていますが、主にどのような事業での伸長が期待できると考えていますか？
A 5	地政学リスクの拡大や感染症の影響による経済環境には懸念もありますが、引き続き需給の引き締まりが予想される半導体部品・製造装置事業や、代理店買収の効果が見込まれるモバイル事業、コロナ禍からの設備投資需要の本格回復が予想される工作機械・産業機械事業や、前期に先物評価損が先行したエネルギー事業などにおいて増益を期待しております。
Q 6	モバイル事業の営業活動利益は、前期比減益です。収益は前期比増収なので販売台数は回復傾向と考えられますが、営業活動利益の減益の理由について教えてください。また、半導体不足やオンライン専用プランの影響なども含め、今後の見通しについては、どのように考えていますか。
A 6	販売台数は、昨年対比では 105%程度に回復していますが、新型コロナウイルス拡大前の一昨年対比では 9 割程度に留まっています。都市部を中心に一昨年対比で来店者数が半減している店舗があるなど戻りが弱いことに加えて、新型コロナウイルス対策としての通信キャリアからの支援金が減少したことも響き、苦戦しております。 また、半導体不足や供給網の混乱から、法人需要の高い機種などでの品不足も影響しています。都市部ではオンライン専用プランの普及もある程度は進んでいると考えられ、来店者数の減少傾向は続くと思われるため、減少幅の大きな店舗は店舗規模の適正化（店舗移転・スタッフ数見直し）を重点課題として着手しているところです。 第3 四半期で大きく落ち込んだ通信キャリアからの手数料収入は、第4 四半期においては出張販売など営業努力などにより一定程度回復いたしました。今後、業界環境は厳しさを増すことも予想されます。キャリアショップ店頭を活用した新規ビジネスや法人向けソリューション・ビジネスなど、新たな収益の柱の構築を喫緊の課題として取り組んで参ります。

Q 7	北米の鋼管事業は、当期は収支均衡を目指していましたが、通期の営業活動利益は 17 億円で前期比 21 億円の増益です。この好調は次期も続くのでしょうか。
A 7	<p>ロシア・ウクライナ危機により原油価格が一段の上昇を見せており、米国ではエネルギー供給力を増大する方向への政策転換も見られることから、シェール業界の投資が進むことも予想できますが、一方、脱炭素による投資制約や労働市場ひっ迫もあり、この影響も見ていく必要があります。</p> <p>鋼管販売事業は黒字化が定着しつつあり、回復傾向にあることは確かですが、リグカウントの水準自体は 2022 年 3 月末時点で 600 基台後半と緩やかな上昇に留まるため、鋼管事業の事業環境の回復スピードには依然不透明な要素も残っていると考えています。</p>
Q 8	2023 年 3 月期見通しにおけるドル円相場見通しは@115 円と、足許 130 円と大きな乖離がありますが、この円安状況が業績見通しに与える影響を教えてください。
A 8	<p>例年、年明け以降から次期見通しを固める中、この間のドル円相場は 113～116 円のレンジで推移しておりましたが、3 月上旬以降、FOMC（16 日）での米利上げを期待したドル買いが急速に進行し、その後も日米金利差拡大を意識したドル買いが大きく進んだ結果、足許為替水準とは乖離が生じております。</p> <p>その業績見通しに与える影響については、当社の外貨建て取引は、食料セグメントを中心とした輸入ポジションが多く、為替リスクは基本的には国内売先に転嫁されておりますので、P/L に与える影響はおおむねニュートラルです。</p> <p>なお、B/S への影響としては、自己資本のうち為替の換算差額が 1 円の円安で約 3 億円ほど増加することから、自己資本に対してはプラスの影響が生じることになります。</p>

【投資について】	
Q9	当期の投資の進捗状況、および次期以降の見通しについて教えてください。
A9	<p>複数の案件が進行していますが、当期中に実行あるいは実行が確定した投資案件は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● セイコーエプソンからの IC テストハンドラー事業の譲受 ● ヘキサフリー大豆加工メーカーへの出資 ● 兼松コミュニケーションズ株式会社による携帯電話販売代理店である株式会社エヌ・エス・シーの全株式取得 ● 兼松コミュニケーションズ株式会社による携帯電話販売代理店であるキンキテレコム株式会社の全株式取得 ● 兼松エレクトロニクス株式会社による、アプリケーション開発や IT コンサルティングを提供するキーウェアソリューションズ株式会社との資本業務提携 ● 韓国鋼板加工メーカーの持分法投資先への追加出資 ● 兼松アドバンスド・マテリアルズ株式会社による電子材料取扱商社である寒川商事株式会社の全株式取得 ● 貿易プラットフォームを産業界へ普及させるための戦略的投資会社 TW Link の設立 ● 北米の鋼管加工事業における第二工場の設立 ● インドネシアにおける乳製品・食品加工・物流会社を持つ総合食品メーカーへの出資 ● 空飛ぶクルマの垂直離発着場を運営するイギリスベンチャー企業との資本業務提携 ● カーボンナノチューブの社会実装を目指す新興メーカーへの出資 <p>上記のほか、現在、パイプラインに複数の投資案件があります。</p>
【株主還元について】	
Q10	期末配当金を 5 円増額し 35 円とする考え方についてご説明ください。
A10	<p>中期ビジョン <i>future 135</i> 後半（22 年 3 月期～24 年 3 月期）での総還元性向は、従来の 25～30%から 30～35%に上方修正しております。当期の業績は、第 3 四半期にて期初見通しを上方修正（当期利益 150 億円→160 億円）した見通し通りの着地となりましたので、その際に同時に上方修正した配当予想（期末配当予想 30 円→35 円）の通り、期末配当を 5 円増額し年間配当を 65 円としております。この増配により配当性向は 34.0%となる見込みです。</p>
Q11	次期の配当を 70 円（中間 35 円、期末 35 円）とする考え方についてご説明ください。
A11	<p>当期利益（親会社所有者帰属）の次期見通しは、当期比 20 億円増益の 180 億円としており、中期ビジョンにて目標とする配当性向 30～35%を踏まえ、次期の年間配当予想を 5 円増配の 70 円（配当性向は 32.5%）としております。</p>

Q12	年間配当額について、上限あるいは下限についての考え方はありますか？
A12	<p>投資と株主還元のバランスを取りつつ、継続的かつ安定的な配当を実施するという基本方針の下、今後も当期利益伸長により年間配当額を増大させていく考えです。</p> <p>下限についての考え方は特に定めてはおりませんが、直近 20 年 3 月期、21 年 3 月期と、新型コロナウイルスによる減益傾向の中でも配当額を維持して参りました。</p>
	【脱炭素社会の実現について】
Q13	脱炭素社会の実現に向けた兼松の取組みや考え方などを教えてください。
A13	<p>当社は 2021 年 6 月に TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に賛同を表明しました。環境問題は企業にとっての責務と認識しています。当社グループでは資源ビジネスや石炭火力発電など環境負荷の高い事業を行っておらず、事業活動における CO₂排出量は当社の事業規模に照らし合わせて、極めて低い水準にあります。現在、当社グループの CO₂排出量の算出作業を進めており、ネットゼロまでの具体的な計画も作成していく考えです。カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すため、自社での排出量削減の努力に加え、自社で創出したクレジットなども活用して、早期のネットゼロを実現すると共に、将来的なカーボンネガティブの深掘りも推進したいと考えております。</p> <p><脱炭素社会の実現に向けての当社グループの取組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 途上国への省エネ・再エネ技術などの普及を促進する二国間クレジット制度（JCM）を利用し、当社子会社の株式会社兼松ケージーケイではベトナムの南部アンザン省に同国最大規模の太陽光発電システムを導入いたしました。上記の案件を始め、当社グループにおいてはインドネシア・サウジアラビア・タイ・ベトナムにて JCM 案件を実行しております。 ● 途上国の持続可能な森林経営を推進するための国際的な取組み（REDD+）として、当社は 2011 年よりインドネシアのゴロンタロ州の農家によるカカオ栽培の普及を支援しております。本事業を通じ熱帯林の保全に寄与しております。 ● 当社と子会社の株式会社データ・テックがインドネシア国営石油会社プルタミナと輸送トラックの燃費改善による脱炭素化と物流効率改善への共同実証に合意し支援実証を開始しております。 ● 当社子会社の兼松ペトロ株式会社が持続可能な脱炭素社会の実現を目指す企業グループ「日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）」へ加盟しております。

【DX 推進について】	
Q14	<i>future135</i> では「グループをあげた DX 推進」を掲げていますが、その進捗を教えてください。
A14	<p>当社グループは、2021 年 7 月に DX 推進委員会を設置し、兼松と兼松エレクトロニクスの執行役員を委員とし、ビジネス毎の DX 検討、グループ共通 IT 環境の整備等を推進中であり、主要グループ会社とも各社の取組みを共有しながら進めております。具体的には、連結グループでの共通 ID 化によるシステム管理・運用の効率化、DX 推進により集まるデータを活用するための基盤構築、グループ内 IT 資産共通化によるコスト削減とセキュリティレベルの均質化、等を個別の分科会にて検討、推進しております。</p> <p><DX 推進の実例></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社内決裁システム「HI-MAWARI」のグループ内展開と蓄積データの分析に着手 ● 経費精算のアウトソーシングである「Concur」を導入 ● 事業共創のためのプラットフォーム「Business Co-Creation Center」の立上げ、AI 技術を活用した画像検査サービス「AIPENET」や倉庫管理 SaaS「KG ZAICO」の販売開始 ● 兼松エレクトロニクスにおいて、コンテナプラットフォームやサブスクリプション型の企業向け無線サービスのソリューション提案・導入 ● 兼松サステックにおいて、同社開発の地盤トータルサポートシステム「e-soil」に蓄積された、地盤のビックデータを活用した新規ビジネス展開ならびに同システムの外部販売 ● 兼松コミュニケーションズにおいて、バックオフィスのほか製造業、建設業、小売業、医療介護の業界別 DX ソリューションを展開 ● その他グループ各社の人員に対して組織、役割に合った DX トレーニングを展開中

以 上